

## 「地域コミュニティから見た男女共同参画へのアプローチ」の概要

### 1. 調査の趣旨

異なる複数の人間がある一定範囲の場所で共に生活しようとする際、その共同生活が成り立つよう生活諸条件が整備、共有されていく。それは、水や入会地の利用方法、葬儀の仕方、日々の防犯など、人々の生活を規定したり生活様式のモデルを生じさせたりする。その際、固定的な性別役割分業意識も、そのコミュニティの生活のあり方として生み出されているのではないか。そういった意識が、コミュニティにおいて培われている可能性を考えることができるのではないか。以上のような問題意識に基づき、そのような生活諸条件を調整、統合する機能を持つと考えられる既存の地域住民組織を対象として、性格の異なる様々な地域コミュニティにおける男女共同参画の取り組みに対する意識調査を行い、それぞれのコミュニティにおける男女共同参画へのアプローチを試みる。

### 2. 調査方法

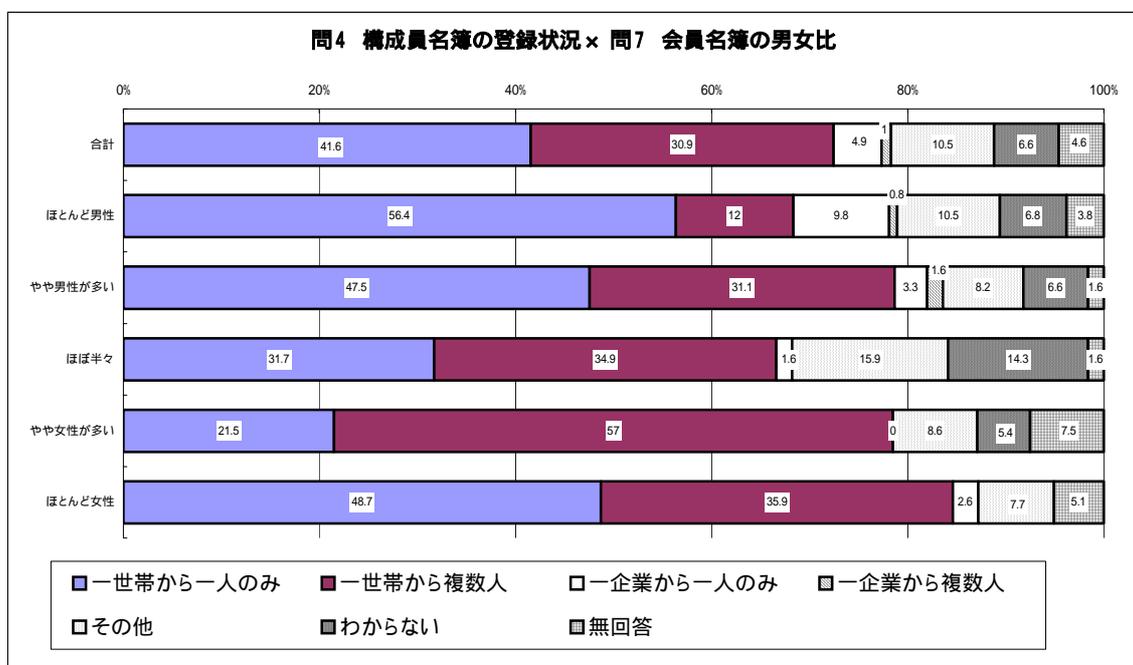
- (1) 調査対象                    地域住民組織（自治会・町内会、PTA・父母会、子供会・育成会、老人クラブ、商工会・商工会議所、農林漁業関係組織）の代表者と女性役員。
- (2) 標本抽出方法                浜通、中通り、会津のそれぞれの地方から、東北農政局の定める農業地域類型に基づき16市町村を抽出し、そこにおける調査対象者を無作為抽出した。
- (3) 調査方法                    郵送調査法
- (4) 調査時期                    平成15年2月
- (5) 標本数                        685人（代表者407人、女性役員278人）
- (6) 回収状況
- |      |             |
|------|-------------|
| 配布数  | 685         |
| 回収票数 | 411（回収率60%） |

### 3. 調査の概要

団体の構成員が「一世帯から一人のみ」「一企業から一人のみ」という要件で構成される場合、男性が選出される

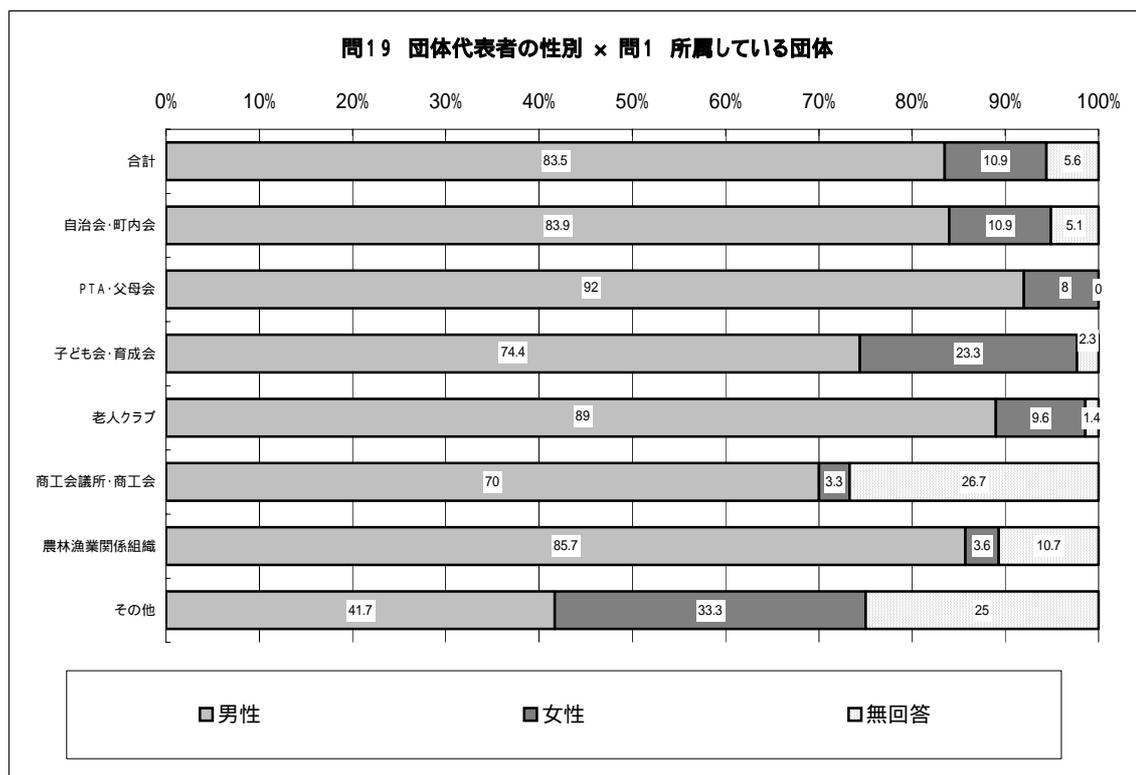
団体の構成員の登録状況について調査したところ、ほとんどの団体が「一世帯から一人」選ばれた会員によって構成されていた。この調査結果と団体の会員名簿の男女比についての調査をクロス集計したところ、会員における男性の割合が高い団体ほど「一世帯から一人のみ」という要件で構成されており、会員における女性の割合が高い団体では「一世帯から複数人」という構成が比較的多くなっている。

このことは、各世帯、各企業から一人という構成においては男性が選ばれることがほとんどであることを示している。



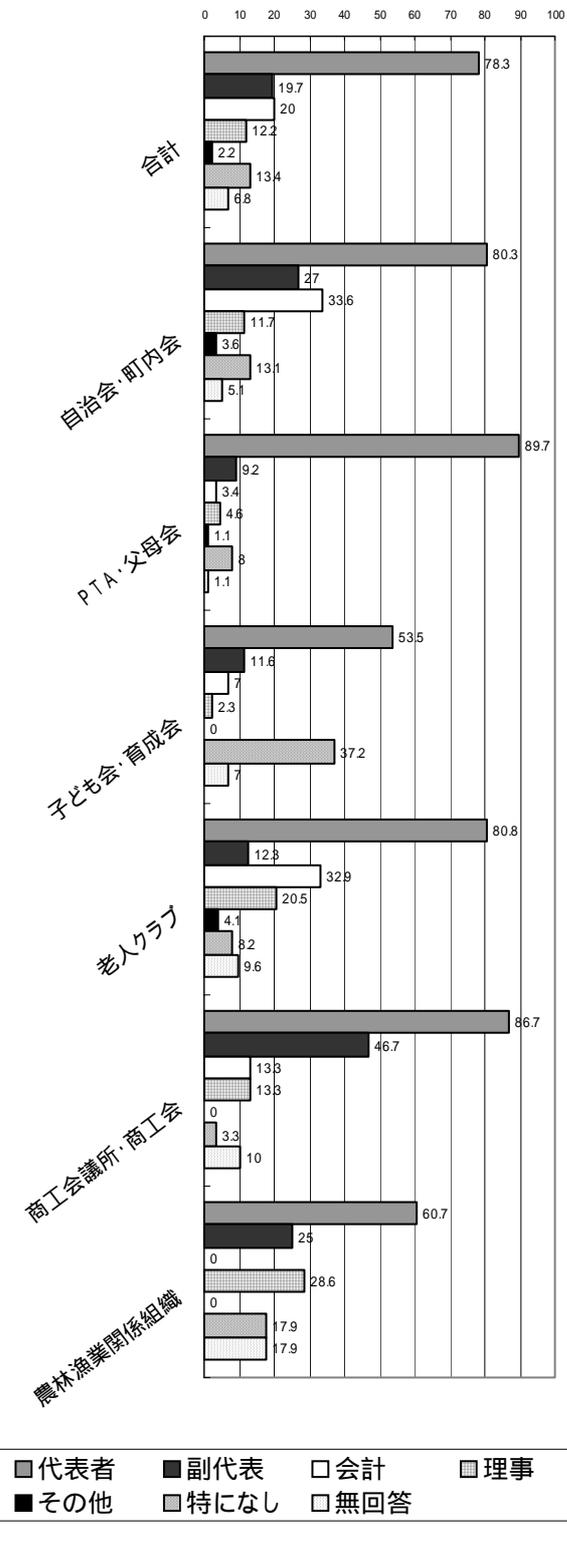
## 会員の男女比にかかわらず、団体の代表者は男性であり、かつ、いつも男性が就く役職がある

所属している団体とそこにおける代表者の性別をクロス集計したところ、団体において会員に占める女性の割合が男性の割合よりも多い、と全体の約80%の団体が答えた老人クラブにおいても、代表者の89%が男性であり、会員の男女比にかかわらず代表者は男性で占められている。

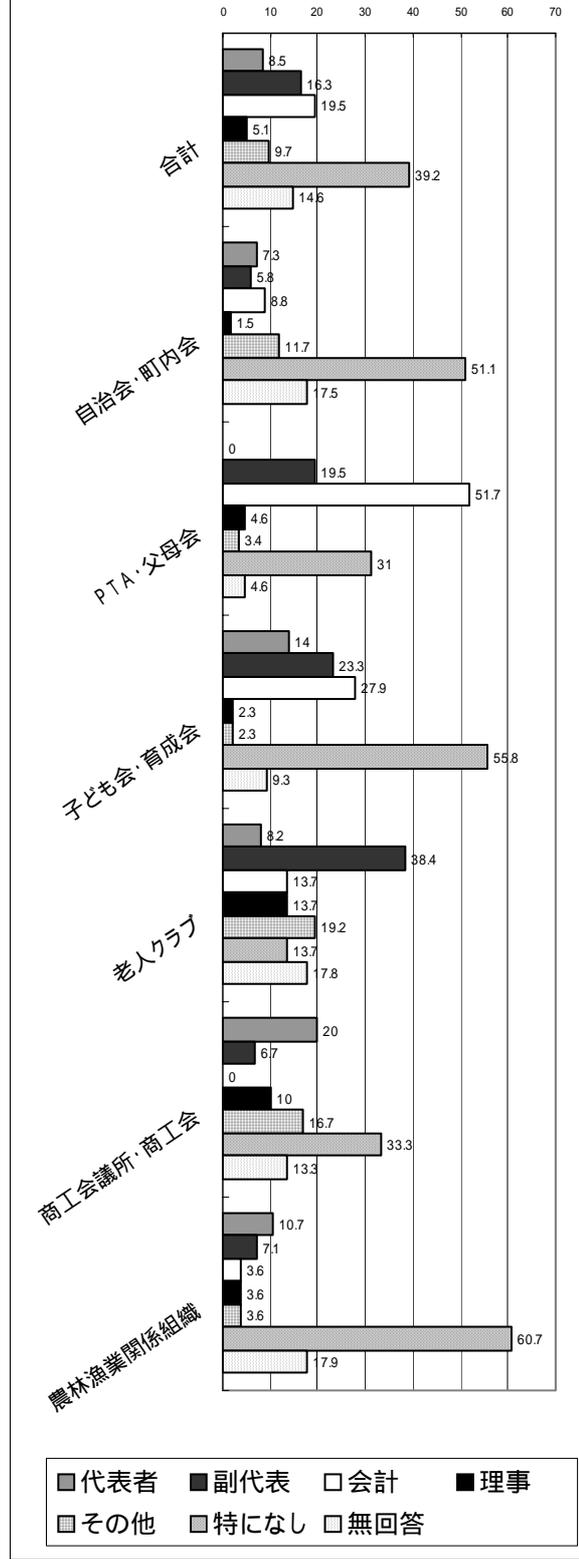


また、所属している団体といつも男性がなる役職について調査した結果をクロス集計したところ、代表者同様、団体における会員の男女比に関わらず、代表者、副代表、会計などいつも男性が就く役職がある。一方、女性はPTA・父母会の約半数の団体において会計の職に、老人クラブにおいて副代表の職に就いている他は、「特にない」という回答が多い。しかし、この老人クラブの理事については、ヒアリング調査の結果、女性部長のために用意された枠であることが分かった。

問9- いつも男性がなる役職×問1 所属している団体



問9- いつも女性がなる役職×問1 所属している団体

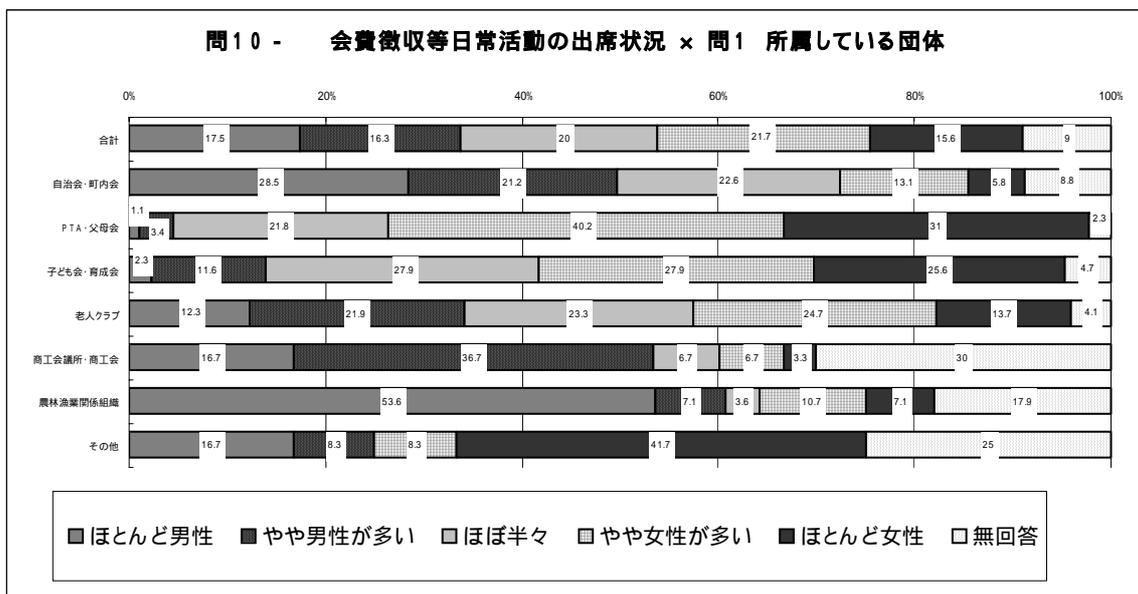
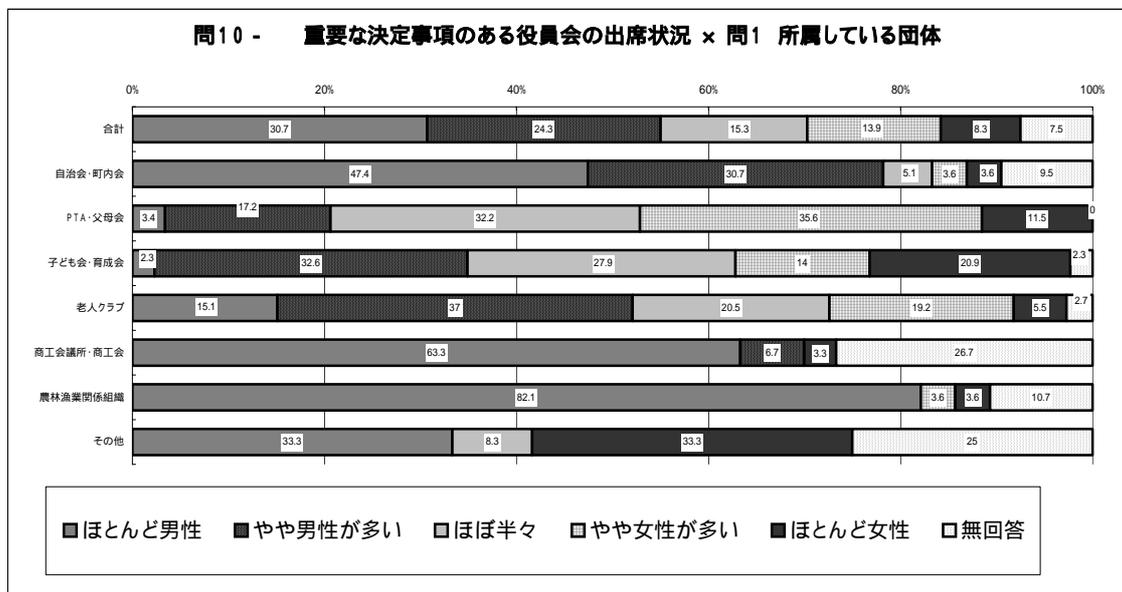


## 女性が代表者になっていない理由として「昔からの慣習」との答えが最も多い

女性が代表者になっていない理由についての調査の結果、最も多かった答えが「昔からの慣習」、次いで「責任ある地位に就きたがらない」、「家事等で時間的に余裕がない」という答えが続く。慣習によって女性が役職に就いていない場合、そこには積極的な理由が存在していないことになる。これまで女性が代表者になっていないからといって、女性が代表者になることに不都合があるわけではない。実際、その他に自由記述において10名の方が「理由はない」と答えている。

## 団体の重要な場面は男性が占め、日々の活動は女性が支えている

役員会議や重要な決定事項のある会議への出席状況においては、どの団体も男性の出席率が良く、行事の準備や会費徴収等の日常活動においては女性の出席率が高くなっている。

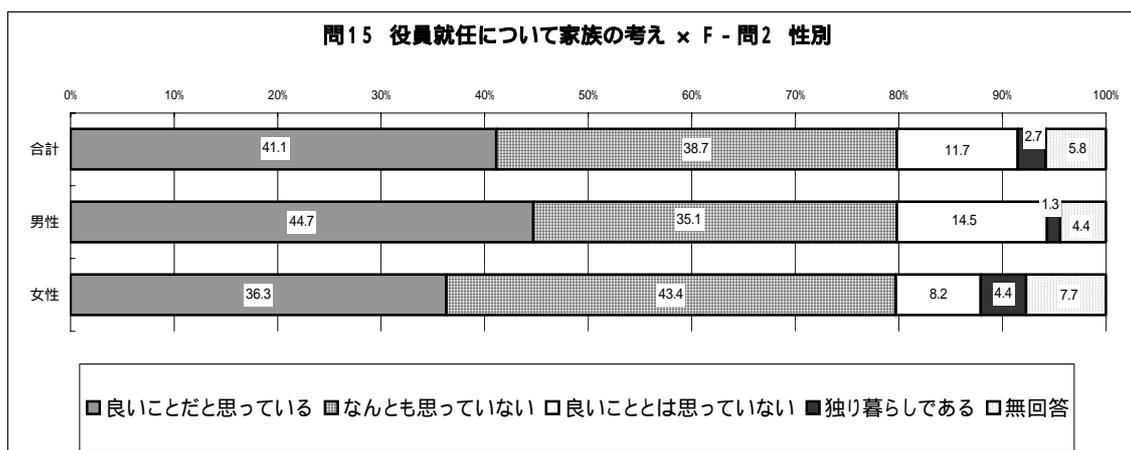


**役職への就任を希望しなかった理由について男性は「多忙になるから」、女性は「務めを果たせる自信がない」が最も多い答えだった**

役職就任を希望しなかった方へその理由を聞いた調査の結果より、男性は「多忙になるから」「務めを果たせる自信がない」「責任を押しつけられる」が上位3つの答えであり、女性は「務めを果たせる自信がない」「多忙になる」「人前に出るのが苦手」が上位3つの答えであった。これより、女性の場合自信のなさが責任ある地位に対する積極性を欠くことにつながっているのではないかと考えられる。

**役職就任に対し家族が反対した理由として、男性は「仕事に支障が出るから」、女性は「家を空けることになるから」が最も多い答えだった**

役職就任に対し家族が反対した方に対し、その理由を問うた調査の結果、男性の主な理由は「仕事に支障が出るから」であり、女性は「家を空けることになるから」だった。また、「家事がおろそかになるから」「飲み会が増えるから」については、男性よりも女性において役職に反対する理由として影響が大きいことが分かった。



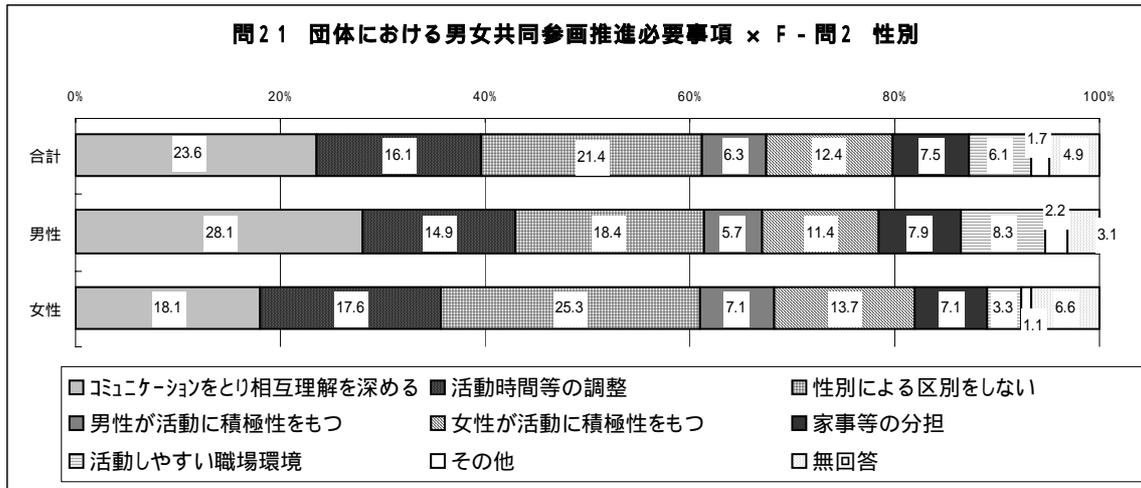
**86.4%の人が「男女共同参画の推進が団体の活動活性化や地域貢献につながる」と答えた**

団体内の男女共同参画の推進が、団体の活動活性化や地域貢献へつながるか、否かについての調査の結果、86.4%の人が「つながる」と回答しており、団体内における男女共同参画の取り組みが求められていると考えられる。

**団体内の男女共同参画を推進する上で必要とされることは、性別や年齢によって異なっている**

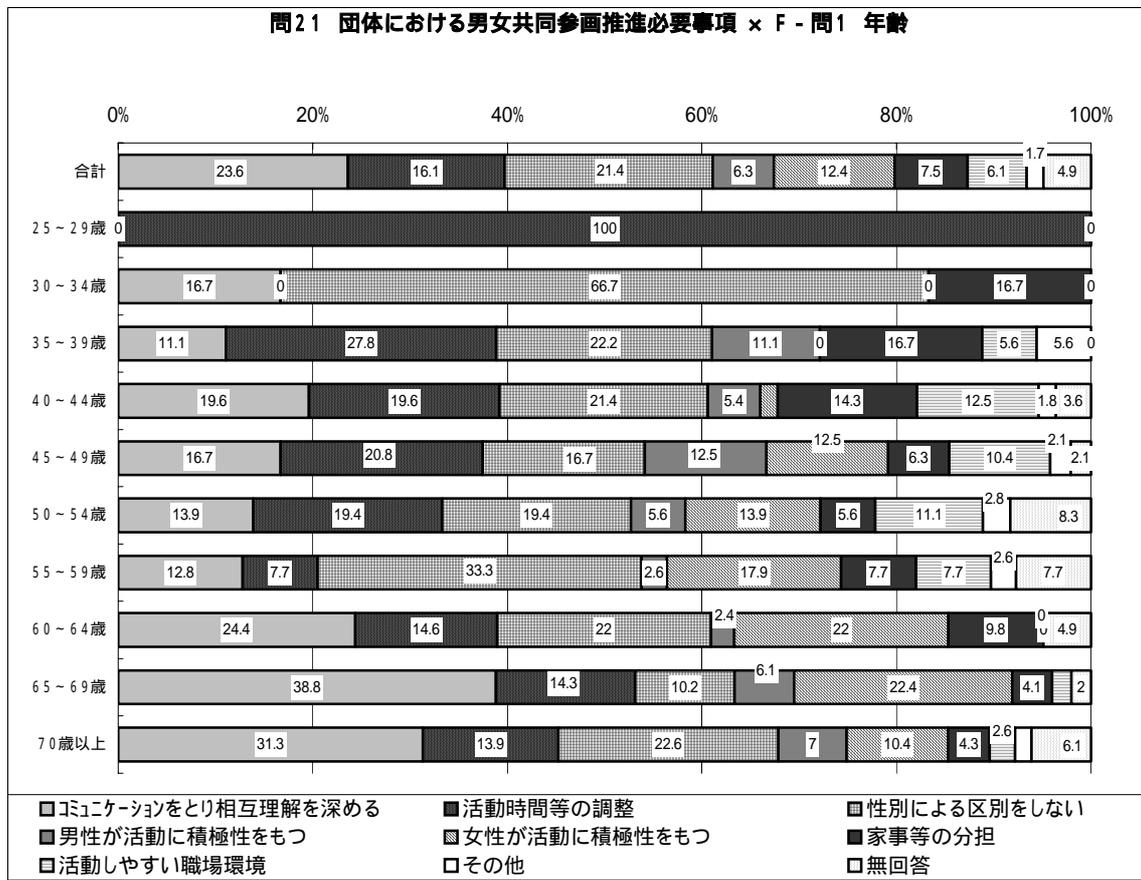
団体内の男女共同参画を進める上で必要とされることについて調査した結果、男性は「コミュニケーションを取り相互理解を深める」という意見が最も多く、女性は「性別による区別をしない」が最も多い答えであった。

問21 団体における男女共同参画推進必要事項 × F - 問2 性別



また、これを年齢別に見ると35～54歳で「活動時間等の調整」が他の年代より答えが多くなっており、60歳以上においては「コミュニケーションを取り相互理解を深める」という意見が多い。また、「男性が活動に積極性を持つ」という意見が35～49歳において多いのに対し、50～69歳において「女性が活動に積極性を持つ」という意見が多くなっている。さらに、30～44歳においては、「家事等の分担」も必要事項として重視されている。

問21 団体における男女共同参画推進必要事項 × F - 問1 年齢



農村地域類型による調査結果の分析において、都市的地域において女性代表者が多く、山間地域において少ない、という以外では、特に目立った差異は見られなかった

調査の中では農業地域類型に基づき、都市的地域、平地農業地域、中間農業地域、山間農業地域の4つの地域について分析を試みた。しかし、都市的地域において女性代表者が多く、山間地域において少ないという以外では、特に目立った差異は見られなかった。

ただ、女性が代表者になっていない理由についての調査結果において、都市的地域は他の地域に比べ慣習を理由とした人が少なく、また、「役所に顔が効かないから」という理由を挙げた人はいなかった。

